

【学年】 6 年

【教科・単元名】 社会：「武士の世の中(鎌倉時代)」

【実践内容】 鎌倉幕府のしくみ「ご恩と奉公」について理解する

【授業の流れと児童の反応】

1 前時の復習と確認・・・壇ノ浦の戦いで平氏を倒したのは、源義経。1192年、征夷大將軍となって鎌倉幕府を開いたのは、源頼朝。2人の関係を資料集で調べる。→頼朝が弟の義経を殺した事を伝える。

2 資料集(青葉出版)の鎌倉幕府の絵地図から

〈発問〉 頼朝は、どうして鎌倉に幕府を開いたのだろうか。

- ・ 山に囲まれている。海に面している。→敵が攻めにくく、守り易い地形である。
- ・ 入る道が「切り通し」しかない。
- ・ 京都から離れた場所を選んだ。

3 〈発問〉 頼朝は、武士にやる気を出させるためにどうしただろうか？

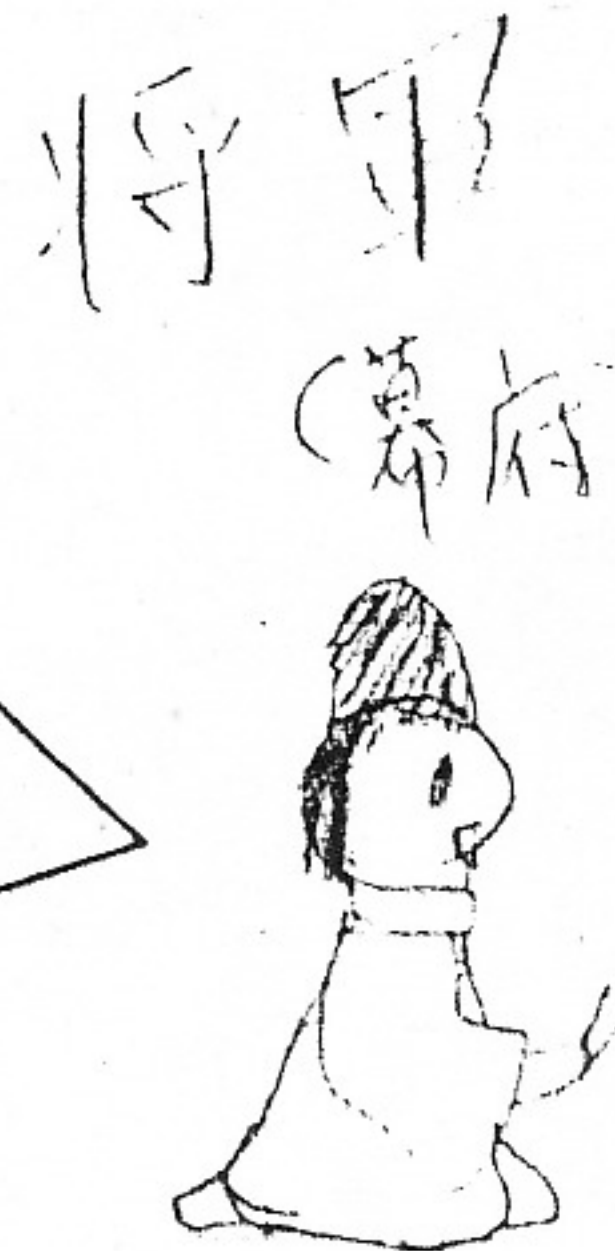
- ・ お金をやった。
- ・ ご褒美をあげた。・・・土地をあげた。
- ・ 土地を守ってあげた。

鎌倉幕府のしくみに「ご恩と奉公」があることを教えた。

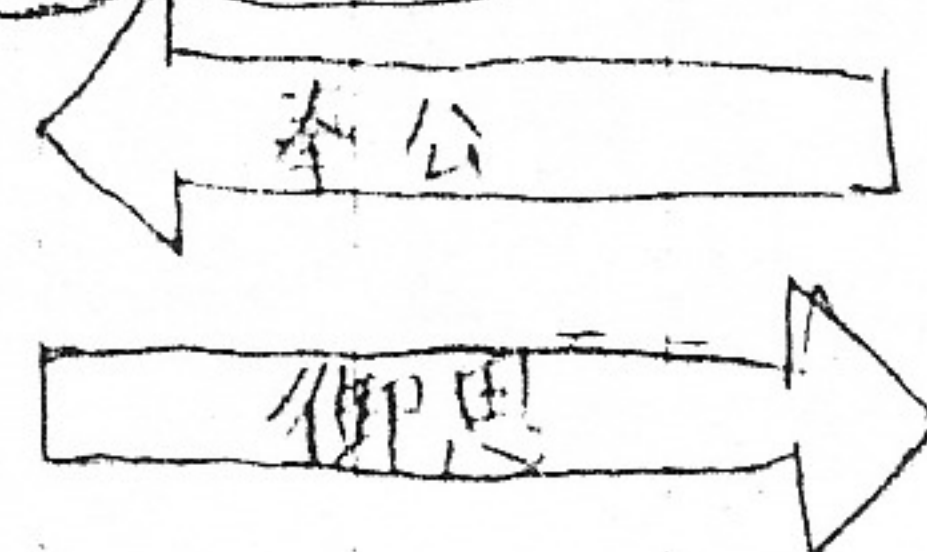
4 資料集のご恩と奉公のところを読む。將軍と御家人にそれぞれ吹き出しを書かせ両者の関係を具体的に考えさせる。ペアで発表させる。

今度、戦をしようと思う。それで、手柄をたてたらお前にその一部の土地をやろう。

・ ~氏を切ってこい。殺せたら褒美をやるが、負けた時は、お前の命は・・・



大手柄からた。領地もあたえよう。次は〇〇にせめてこい



御家人 (武士・家来)

手柄がたつていふ手は、お返しをしよう

・ ははっ、有り難き幸せ。
・ わかりました。でも、命だけはごかんべんを。

5 本時の感想を書く。

【学習のふりかえり】

- ・ 鎌倉幕府の地図の下に解説がついているので、本時の場合は、資料から地形の特色を読み取ってはいなかった。3の発問についても、資料集の次ページの將軍と御家人の関係を読んでいる子もいて、そこからヒントを得て考えている様子であった。
- ・ 「ご恩と奉公」については、資料集を読めば内容がわかるが、吹き出しに書くことによって、聞き慣れない用語の内容ををより知識として理解できたように思う。吹き出しに書かせる時に先に役割演技をさせて例示したので、イメージを持って取り組めた。この「ご恩と奉公」の関係をしっかりおさえておくことで、元との戦いで褒美がもらえないことで、武士の不満が高まり、この仕組み自体が崩れていったことが理解された。
- ・ 授業の感想として、「この時代は、領地がとても大事なんだな。」「將軍は、御家人に命令するだけではなく、ご恩をしているからうまく成り立っているんだな。」「位などでこんなことをされるのは、嫌だな。」「なんで昔の人は、お金と引き換えに人間の命を奪うのか。」等様々であった。仕組みとして理解した子、物でつながっている関係に疑問を感じる子もいた。